

# 第1回登別市総合計画第4期基本計画市民自治推進委員会 育み部会 議事録

●開催日時 : 令和6年6月24日(月)

18時00分~19時00分

●開催場所 : 登別中央ショッピングセンター アーニス2F

●出席者

部会長	大熊龍也
部会員	大坂倫一 佐藤文子 合田美津子 松山哲男 仲川弘誓
庁内検討委員	部会長: 西川原邦彦 副部会長: 大越智輝
事務局	企画調整G: 近間聡史 遠藤 亨 原田和穂 服部将大 市民協働G: 大内拓海 相馬 杏

●欠席者

副部会長	永瀧幸治
部会員	磯田大治 大川和徳

◆議題 : ①第4期基本計画の進め方について

②各委員のフリートーク

③計画検討にあたっての参考資料(第3期基本計画仮総括表等)について

◆配布資料 : (1) 庁内検討委員会・市民自治推進委員会組織図

(2) 登別市総合計画第3期基本計画

(3) 第3期基本計画仮統括表

(4) 令和元年度・令和4年度まちづくり意識調査結果報告書

(5) 中期財政見通し(令和3年度~令和10年度)

(6) 大型事業推進プラン(令和3年度~令和10年度)

(7) 廃止施設等除却推進プラン(令和3年度~令和10年度)

(8) 登別市公共施設等総合管理計画及び登別市公共施設等個別施設計画

## 【育み部会】

<市民自治推進委員会 育み部会 部会長による議事進行>

(部会長)

本日は、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。

それでは、議題（１）「第４期基本計画策定の進め方について」、事務局より説明があります、よろしくお願いします。

### 議題１ 第４期基本計画の進め方について

(事務局\_企画調整 G)

総務部企画調整グループの近間と申します。よろしくお願いします。

それでは企画調整グループより、「第４期基本計画策定の進め方について」説明いたします。

第４期基本計画の策定にあたっては、市民自治推進委員会と市職員による庁内検討委員会が両輪になって進めていくこととなりますが、市民自治推進委員会の皆さんには、基本計画の基礎となる体系図について検討していただき、その過程の中で、各分野で生じている困りごとや必要な取組などに関し意見交換していただければと思っています。

具体的には、節、施策、施策の基本的な方向、主要な施策の設定が、社会課題の解決や１０年先の未来を見通したまちづくりを行う上で相応しいものになっているかなどを検討していただき、変更の必要性や（変更を必要とする場合には）具体的な変更方法などに関し意見をとりまとめていくこととなります。

なお、章については、平成８年度に策定した基本構想において、おおよそ５０年先の登別を見据えて設定したものですので、今回も変更いたしません。

このため、（繰り返しになりますが）節、施策、施策の基本的な方向、主要な施策の設定について検討いただきます。

また、皆さんの議論を基本計画にまとめる際の書きぶりについては、主要な施策の具体的な取組を含め、市民自治推進委員会の各部会での議論、委員の皆さんの思いを踏まえて、令和７年度に、市職員による庁内検討委員会を中心にとりまとめることとなります。

その経過については、令和7年度以降、適宜、市民自治推進委員会の皆さんにも情報提供していきますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は、庁内検討委員会の各部会の部会長、副部会長にも出席いただいております。今後も、市民自治推進委員会の各部会には、庁内検討委員会の対応する部会に所属する職員が出席し、委員の皆さんと意見交換を行っていくこととなります。

当然、市民自治推進委員会の議論の主役は委員の皆さんであり、市職員はオブザーバーとして参加することになりますが、単に出席するだけでなく、行政の立場から皆さんの質問に答えることはもちろん、施策の推進状況や具体の事業の実現性などもお話しさせていただき、時には議論させていただくこともあろうかと思っております。

その上で、庁内検討委員会の市職員は、市民自治推進委員会の議論の状況や皆さんとの意見交換の結果を持ち帰って、それを踏まえて庁内検討委員会で議論し、具体的な策定作業に反映していくこととなります。

以上の方法で、体系図に関する検討を進め、令和7年1月を目途に、体系図（案）をとりまとめたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、議論にあたりたたき台になる体系図の素案については、現在、庁内検討委員会を中心に調整中であり、次回の会議でお示しいたします。

そのため、本日は、会議次第にもあるとおり、皆さんの自己紹介等も含めて、これまでどのような活動をしてきたのか、登別をどのようにしたら住みよいまちになるかなど、皆さんの思いを自由にお話しいただき、共有した上で、次回以降の体系図（案）の議論に入っていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

（部会長）

今、事務局よりご説明がありましたが、質問等ございますでしょうか。

【質問なし】

次に、議題（2）「各委員のフリートーク」について、先ほど事務局より説明がありましたが、まずは自己紹介も含め、皆さんの思いなどを語っていただきたいと思います。

## 議題2 各委員のフリートーク

### (委員1)

子どもたちの健全育成はカッコいい言葉ではあると思いますが、子どもたちを集めて楽しいことができ、一つでも良いなと思い出に残るものができればいいと思っている。

少子化が激しく進み、何をやっても子どもが集まらないという状態で、とにかく何かしないといけないと考えつつ、何をしたらいいのかと会として悩んでいる。

### (委員2)

図書館がアーニスに移転するという大問題がテーマとしてのしかかってきている。続けてきた運動も引退を考えたが、そうも言ってもらえないというのが今の心境。

一つ余分な話となりますが、運動を始めたきっかけが貸出図書が1年、2年は貸出率が全道1位になったぐらい人が来ていたが、どんどん貸出が減ってしまった。

資料費が200万で18年間続き、全道最下位となったため、会をたちあげました。そういった問題と向き合ってきたので厳しいこともありましたが、この延長線上で、このアーニスへの移動は私にとっては大問題だと思っているため、時間をかけて話し合いを進めていきたい。

### (委員3)

登別市で生まれ育ってきた。観光という印象があるが、観光だけではなく、まちづくりを意識してほしいと思っている。

### (委員4)

書店をやりたいという思いでいたが、今は混乱している。

本屋も全国的に減少傾向、登別市は文化人が少ないから商売にならないという声が多い、登別における文化が低いと思われていることを色々考えている。

それぞれの文化人は色々取り組んでいる方が多いが横の繋がりが無い、自分の考え方がベストという捉え方をしており、他人の意見を聞いてより良いものを作っていくというものが非常に弱いというところが文化の弱い原因だと考えている。

私が思っていることは、様々な会に出ても会話が無いと感じている。会話を入れた

ファシリテーションが大事であると今痛感している。市民自治推進委員会においても皆さんの意見を聞くで終わっていると思っており、これからの大事な委員会活動なので、会話をして活かしてより良いものをつくるような状況にしていかなければならないと思っている。

(委員5)

「ふるさと登別のことを子どもたちに教えていこう」という柱で各学校において取組を進めているところである。

これからの登別のまちは、子どもたちが元気に学校に通う、明日も行きたいと思う学校づくりをしていく、それがふるさと登別があり、学校であり、というところに気づき感じていけるまちになってほしいと感じている。

(委員6)

登別にきて30年くらい経ち、色んなことに関わらせていただいている。

40歳以上を中心に8割以上の方が老後の心配を抱えており、さらに子育てが心配という点でもマイナスな状態。このような状況は結局、第3期基本計画がうまくいっていないと考えた方がいいのではないかとというのが私の独自の考えである。

数字でみると細かい部分は進展という評価もあるが、大きなイメージではこのまちに魅力を感じていない自分がどうなのかと思う。

ただ、登別の人はずごくで、多くの方が色んなボランティアに関わっていただいているが、まちづくりに一つになって活かされてこない、まちを変えていくことに繋がっていない。これは、市民が行政を動かす力がまだなく、そういう地盤ができていないと思うため、それができるのがある意味市民自治推進委員会ではないかと考える。

行政とともにまちづくりを大胆に取り組むまちにならない限り、いくら頑張っても良いものにならないため、大胆な行動がとれるようなまちになんとかしていきたいと思う。

(部会長)

次に、議題(3)「計画検討にあたっての参考資料について」、事務局より説明をお願いします。

### 議題3 計画検討にあたっての参考資料について

(事務局)

配布した資料に沿って説明

(部会長)

今、事務局よりご説明がありましたが、質問等ございますでしょうか。

【質疑等】

(委員1)

50年の総合計画が残り20年で折り返しの30年が経っていますが、総合計画を策定したときのイメージどおりに進んでいるかという疑問を感じている。

評価的には評価される結果になっているが、市民満足度は得られていない。

ただ、残り20年ということで20年先であれば、ある程度見えてくるのではないかと。人口がどのようにになっているか、施設がどうなっているか、医療や飲食店の跡継ぎがないなどのイメージが作れると考える。そのため、財政状況がこうなるなど逆算して第4期基本計画を策定することが大事ではないかと思う。

第3期と同じような方法で策定すると同じような結果になるのではないかという懸念があるため、イメージを作ってから第4期基本計画を策定した方がいいと考えるが、市としての考えがあれば教えてほしい。

(委員2)

まちづくり意識調査の結果においては、不満の部分の原因が書かれていないため、原因を知る必要があるのではないかと考える。

例えば、一つの手法として「総務省のバーチャルデザイン（情報通信白書）」を参考にすると自分が50年後にどういうまちだったらいいかという視点で作っているため、従来の策定方法は否定するものではないが、視点を変えて基本計画を策定するのはどうか。

(事務局)

総務省の例を出していただきながら50年という長いスパンで自分の未来という

形で想像しながら作ることも可能ではないかというご指摘について、かなり先の大きな未来を描いている話となるため、5期が終わった時には、総合計画を基本構想から作り直すこととなるため、そういった際にご指摘のあった手法は一つ有効な手法になるかと考える。自分の50年後を描きながら、10年ごとの基本計画で描いていくことがまさに総合計画の考え方であり、広い意味での捉えとしてはご指摘いただいた部分はまさに当てはまると捉えています。今回はあくまでも20年間のさらに短期スパンの10年間で何をやるべきかを描く計画になるのでそこを見据えながら計画を策定していくこととなると考えている。

残り20年後をある程度想定しながら基本計画を策定すべきではないかというご指摘について、基本構想のゴール地点がある程度見えてきており、第2期や第3期を策定したときとは違ってきている部分もあると思っている。

そのため、ご指摘いただいたとおり今どの地点にいるのかを踏まえて作ることは重要であると考えますが、各章の基本構想で描かれた未来に対して今どういう地点にあるのかというのが、定量的というより、定性的な部分もあるため、それぞれの委員さんの中で30年経ってどの程度実現されているのかという思いも持ちながら、まさに今回の議論に加わっていただければと考えている。

ただ、その定量的な部分で、人口や経済規模などが、基本構想の今どういう地点にいるのかということをお示ししながら議論することは大切であると感じたところである。

#### (委員3)

今後、例えば、登別市は、小・中学生は1,500人程度に減少、病院の数は3分の1、そうした上で行政の財政状況を推測すると、大体20年後はどうなっているのか、ある程度は想像できるため、その点をどう改善するかという視点が必要である。時間は限られているが、行政が整理し、それを皆さんに伝えて検討していく必要があり、皆さんが共通認識を持った上で、計画を策定していくべきである。

#### (委員4)

総合計画そのものは絵に描いた餅であるとよく言われる。

総合計画がなければ方針がバラバラとなるため必要であるのは理解する。従来の総

合計画のあり方、取り組み方をゼロから見直ししていかなければならないと考える。

第3期基本計画から第4期基本計画にかけて、状況はかなり変わってきているため、従来の考え方を継続という方向性だけでは足りない。従来の市役所の考え方ではダメな時代に入ってきているため、こういったことを踏まえながら色々議論をしていければいいと思う。

(委員5)

各部会を開催し、部会長・副部会長会議で今のような人口などの現状の話をさせていただき、場合によっては全体会議を開催し、皆さんで共通認識を持った上で総合計画の議論に入っていければいいと考える。

(事務局)

人口がこのままいくとどれくらいになるか、子どもの数や児童生徒数が20年後どうなるのか、公共施設を維持するのにどのくらいの費用がかかるのかなどどこまで充実したものを用意できるかわからないが、定量的な数値は用意できるかと考える。

全体での認識なので各部会ではなく、各部会長・副部会長にお集まりいただき、共通認識をもって、それぞれの部会に戻って共有するなどには可能かと思うので、各部会の1回目の会議が始まるため、育み部会でお話のあった内容をどうでしょうかという投げかけはできるかと思うため、市民協働グループと検討したいと思う。

(委員5)

目先で考えていくことはいいことはなく、無駄な税金や市民の無駄な労力を使うことになってしまうため、見えるものは皆さんの意見を統一して進めることがいいと考えている。

(事務局)

総合計画のあり方についてのご指摘ですが、総合計画は市の行政の範囲全般に関する計画であり、総花的な計画にならざるを得ないところはあると考えますが、各章、各施策の議論においては、時代の変化や価値観の変化を踏まえて当然議論を進め、反映させていかなければならないと考えている。

(委員6)

総合計画の中身を時代背景においてどう変化させていくかなど、難しくなってきたが、思い切った発想でやってほしい。

今までの施策の継続だけでなく思い切った大胆なことをやらないと行財政経営としては非常に難しいと感じている。

(委員7)

学校での文書を書く際に、子どもたちを取り巻く環境が加速度的や先を見通せないということを書くため、時代の流れが大きく変わっているため、20年先が少し見えているという点を皆さんと共有して計画に反映することが大事であると感じました。